

試験日 : 2026 年 2 月 23 日 (月)

入試種別 : 大学院入学試験(4 月入学)博士後期課程 春期試験

学部・研究科: 文学研究科 仏教学専攻

科目名 : 第 2 群 ②仏教漢文

解答又は解答例

問 1 『大般涅槃經』巻 8 からの出題である。

〔大 意〕

本文は「力士眉間金剛珠の喩」である。

王家に大力士がいて、この力士の眉間に金剛珠がある。他の力士と相撲を取って額で打ち合ううちに、額上（眉間）の珠は皮膚の中に埋まってしまった。力士は自分でもその珠がどこへ行ったのかが分からなかった。額に傷があったので、良医の治療を受けることになり、良医は力士に珠の在処を尋ねたが、力士はどこに言ったのか分からず珠がなくなったことを嘆いた。その時に、良医は力士を慰め、鏡をもって陥入した金剛珠を彼に見せた。力士は珠が明瞭に顕現するのを視て、心に驚怪を抱き、奇特の想いを生じた。このように、一切衆生も善知識に親近することができないために、仏性があると言っても、それを見ることができないのである。如来は諸の衆生には皆、仏性があることを説く。諸の衆生は無量億の煩惱に覆い隠されているために仏性があることを知らない。もし煩惱を断じ尽くせば、その時に仏性は明瞭に顕れるのである。

問 2

〔書き下し〕

一切衆生も亦復（また）是の如し。善知識に親近すること能わざるが故に、仏性有りと雖ども皆、見る事能わず。而して貪婬・瞋恚・愚癡の覆蔽する所と為る。故に地獄・畜生・餓鬼・阿修羅・旃陀羅・刹利・婆羅門・毘舍・首陀に墮す。

〔和 訳〕

一切衆生もまたこれと同じである。善知識に親しみ近づくことができないために、本来俱有している仏性を見ることができない。そればかりか、貪婬・瞋恚・愚癡の三毒の煩惱に覆い隠されているのである。したがって、地獄・餓鬼・畜生・阿修羅や、また旃陀羅、さらには刹利（王族）・婆羅門（バラモン）・毘舍（庶民）・首陀（奴隸）などの世界に堕ちてしまうのである。